



空間と行動との関連性に注目し、オフィスのレイアウト、歩行者の動線や空間認知・評価に関する実験を行い、研究成果を実際の設計に応用することを目指します。

略歴

博士（工学）、一級建築士。2002年東京大学で博士学位取得。2010年まで日建設計株式会社で建築設計に従事し、東京電機大学で非常勤講師を務めていた。東京大学大学院博士課程に在学中、日本学術振興会特別研究員を務めていた。2010年4月日本工業大学建築学科の准教授に就任し、2023年10月から現職。2015年日本建築学会奨励賞、第3回埼玉建築文化賞教育施設部門優秀賞受賞。

所属学会

日本建築学会	会員
人間・環境学会	会員
日本建築学会関東支部	役員
埼玉支所	

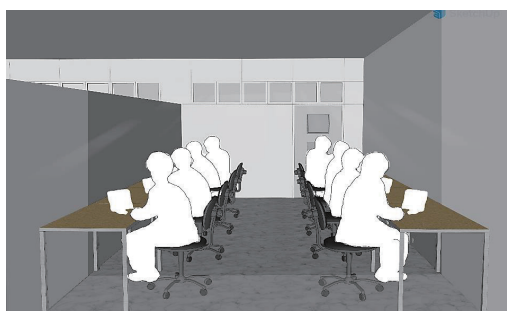
研究紹介

作業効率・空間認知・環境行動に関する研究

研究執務空間における作業効率と心理評価に関する研究

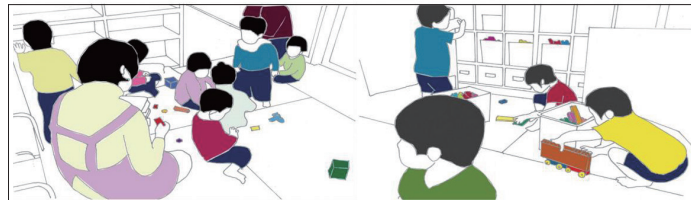


会議席では、会議側面に向かって創造的活動を行う対面型がある場合、会議の自己評価は高く見られた。

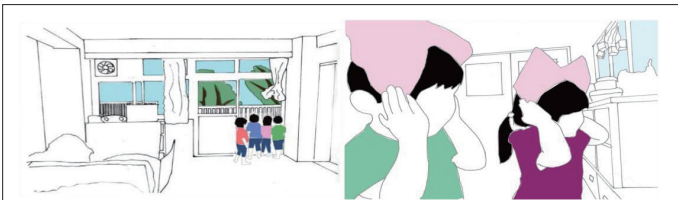


壁型では、作業効率、心理評価共に廊下側よりも窓側が良い。作業効率が高い。情緒的心理評価が高い。

保育園における園児の交流と空間構成に関する研究



おもちゃ遊びでは、組立てた物を他の園児に見せ、承認してもらったり協力して物を作る際に交流が見られた。



会話では、同じ物を見てる時や着ている服の話題などにより交流が見られた。

共同研究の事例

- 1) 研究執務空間における作業効率と心理評価に関する研究（東京大学との共同研究）
- 2) 外部空間における歩行速度及び経路選択に関する研究（東京大学との共同研究）
- 3) 保育園の観察調査による園児の行動と空間構成に関する研究（東京工業大学との共同研究）

主な論文発表

- 1) 徐他：屋上庭園からの景観における空間構成と心理的評価との関係,日本建築学会計画系論文集,2023.2
- 2) 徐他：個室の面積及びレイアウトがオンライン会議における自己評価及び心理評価に及ぼす影響—研究執務空間のレイアウトに関する研究,日本建築学会計画系論文集,2022.12
- 3) 徐他：2つの保育園の観察調査による空間構成に関する研究（その1）：2歳児クラスの交流行動と空間分布,日本建築学会計画系論文集,2020.3